

2016年5月23日

吉田佐門

功労賞表彰御礼挨拶

KJKの前身の「健康住宅推進協議会」が2000年にNPO法人の認証を受け、「NPO法人日本健康住宅協会」と名称を変えて15年が経過し、本年新たに表彰規定に追加された入会歴15年の長期会員活動による功労賞受賞の最初の栄に浴し誠に光栄に存じます。

思い起こせば、住宅の健康問題を研究するために1990年に「健康住宅推進協議会（旧KJK）」を創設した石本徳三郎氏に誘われて1993年に健康住宅活動に参加し、5月の総会で事務局長を拝命し、99年に技術部長に転じ、2003年からは事務局からは退きましたが、広報委員会や技術部会に出席して活動させていただき23年が経ちました。

旧KJK設立当初は結露などによる住宅の劣化、つまり「住宅の病気」から住宅を守ることが健康住宅の主なテーマだったのですが、住宅で発生するダニによるアレルギー問題や、新築住宅でのホルムアルデヒドなどによる健康障害が多発するようになってから、研究活動は居住する人の健康を守ることにシフトし、旧建設省が主管した国家プロジェクトである「健康住宅研究会」などにも委員を派遣して協力し、我が国での健康住宅問題研究のトップランナーとしての地位を確立しました。

旧KJKが呱呱の声を上げた最初の事務所は大阪市西区江之子島のマンションの1室で隣で研究部会を開催するというささやかなスタートでしたが、「健康住宅活動」の重要性が認識されるにつれて研究部会の数も増え手狭になり、部会出席者の交通の便も考慮して、新大阪地区への事務所移転が私の最初の大仕事でした。

1990年代はまだ世間では健康住宅に関する正しい知識や情報が不十分でしたので広報活動は最重要業務の1つで6月20日を「健康住宅の日」と定め、毎年この前後の日に最先端の専門家を選んで招請し、東京と大阪でセミナーや講演会を主催していました。その成果に影響する講師選びは大変だったのですが、1998年には海外にまで手を伸ばし、当時空気質研究の先進国であったドイツからDr.T.Salthammerを招いたことなど、楽しい思い出もあります。

住宅のお医者さん育成を目的に1993年から始まったハウスマンテナ資格制度では、研修テキストや問題集の作成に参画し、研修講師なども務めさせていただきましたが自らの研鑽の意欲源ともなりました。

1997年には、当時深刻な社会問題になっていた室内空気質問題に対処するために旧通産省は2年間の「室内環境汚染対策調査」プロジェクトを企画し、旧KJKに委託することとなり、会員の皆様のご協力を得て事務局を務め、翌年の室内空気質指針値設定などに繋がる有意義な成果を上げることが出来て誇らしく感じました。

1998年にはいち早く電話による健康住宅相談コーナーを設け、初代の電話担当を務め、全国からの電話を受けて相談に応じました。とりとめもない訴えや知識豊富ながら思い込

みの激しい相談には辟易することもありましたが、宥めすかして状況を判断し、適切な対処法や問題解決の方法を見出し、相談者が納得する情報やアドバイスを与えるのは容易ではなく、場合によってはカウンセリング的な対応が必要なケースもあり、極めて貴重な経験をしました。そのおかげで現実に住宅で起こっている健康障害に関する大量で多様な諸問題の情報を収集し把握することができて、これらのデータは後の学会発表や KJK の Q & A 資料として役立っています。

広報活動では旧 KJK の機関誌であった「健住協通信」の編集に携わり、2002 年からは WEB に変わった KJK ホームページの健住協ニュースのメンテナンス要員となり、2006 年 4 月から 2011 年 9 月まで KJK ホームページに毎月「事務局だより」（現協会だより）を担当し、寄稿するためのトピックス探しで苦労したのも懐かしい思い出です。

特に、空気環境部会や水環境部会の皆様には部会活動や飲み会でもフレンドリーに接していただき、お世話になり誠に有難うございました。

2013 年からは脊柱管狭窄で歩行障害がひどくなり、部会活動や成果発表会にも出席できなくなり、外野からの応援しかできず誠に残念ですが、今後とも KJK がますますご発展されることを祈り挨拶の言葉といたします。

以上